

あじさいの花の美しさに思わず、足を止めてみられてしまう今日この頃です。

【梅雨】六月十一日頃

梅雨の季節に入ると長雨が続きます。この長雨のお蔭で日本の田植えがで



ます。大地はたつぷりと水を貯蔵し、野山の緑は豊かになり、夏の暑い時期にも涼水を供給してくれます。雨の恵みにはただ感謝のみ。

梅の熟する頃に降る雨というので梅雨(ばいう・つゆ)、微雨(ばいう・つゆ)とも書くように、微を生じやすくする雨なのです。五月雨(さみだれ) 村雨(むらさめ) 空梅雨(からづゆ) 緑雨(りよくう) 麦雨(ばくう) 甘雨(かんう) 瑞雨(ずいう) : 等々、雨を表す日本語はたくさんあり、日本人の繊細な感性に驚かされます。

この徴は『古事記』『日本書紀』の天地創世の神話にあるごとく、ウマシアシカビヒコジノカミの葦牙であり、生えてくる生命でありました。そのカビの神は日本の創世記の神であり、文化を育ててカビの文化を生み出した神なのです。日本人は、このカビを味方として酒や漬物や納豆などの酵素利用の発酵食品をつくり出しました。ともすれば敵視しそうなカビを防ぎながら、湿気に対応することから酵素を活用するユニークな文化―カビを生かした腐りの利用は、世界にも類の少ない独特の文化です。自然征服の発想を輸入した現

代は、そのための公害に悩んでいます。この大自然の中で謙虚に生きてきたこのような日本人の生活伝統を想起し、あらためて自然からの恵みを再発見したいものですね。

【七夕】七月七日

七夕祭りは中国の古い星の伝統がわが国の大昔からの棚機女の信仰と結びついて始まった祭事です。持統天皇の頃、宮中の五節句の一つとなりました。

中国の伝説、牽牛と織女のお話は「乞巧奠」といって、神に手功を乞うという意味。星祭りをして技芸の上達を祈ると望みが叶うとされました。

日本では、この乞巧奠が伝わる以前より、遠い神代の時代から棚機姫信仰がありました。神代の時代、機織神として天棚機姫命という女神がおられ、天照大御神が天の岩戸へお入りになった際、神衣を織って大神に奉仕せられたといわれます。

また天孫瓊杵尊が天降りまして日向の国笠沙の御前にお立ちになった時、水辺の機屋へ(八尋殿)で一心に機を織りながらお待ちになつておられた少女がこの棚機女または乙棚機女で、木花咲耶姫といつて瓊瓊杵尊の后と訪れを待つのが棚機女で、「機を織る」ということは、神聖な意味を持っていました。古来より、七月七日は、わが国固有の祖先の霊を祭る大切な祭り日とされていきました。



芒種というのは稲や麦など種の出る穀物の種のことをいう。田植えがはつはつ始まる頃。



一年の中で最も昼間が長く夜の短い日です。

ワンポイントアドバイス 『早寝 早起き 朝ごはん』

最近、近くの小中学校に「早寝、早起き、朝ごはん」と大きく書かれたスローガンを見かけます。気になって調べてみますと、文部省が「よく身体を動かし、よく食べ、よく眠る」という事は、成長期の子供にとってあたり前で必要不可欠な基本的生活習慣であるが、この基本的生活習慣が大きく乱れ、学習意欲や体力気力の低下の要因と一つであると指摘して、この運動が全国的な運動となつている、ということが分かりました。このあたり前の事が、今の生活様式の変化によって崩れていると知って、びっくりしました。

でも、今は私の子育ての時とは違って、家で調理しなくても食事ができたり、家事も便利になり、働く女性も増え、考え方も男女平等と考える人が多くなつてきているように思います。でも、子供達は本当は何を求めているのでしょうか。時代が変わっても子供の求めるものは、華やかな外食ではなく、お母さんの愛のこもったおむすびではないでしょうか。「寺子屋」のお母さん、子供達のように (甲斐敬子)

六月 和歌コーナー

はじめての おしゅうじかいた たのしかった

「あめ」とかいたよ いっぱいかいた

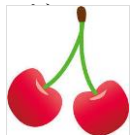
年中 小山 翔平

☆初めて作った和歌。素直な気持ちをそのままお話ししてくれました。素晴らしいですね。

さくらんぼ おうちのにわに たくさん

とりもたくさん つつきにくるよ

年中 廣尾 颯音



☆おうちの庭にさくらの木があるなんてすごいですね。春はお花がいっぱい咲いてきれいでしょうね。

げきじょうで がつきをふいた たのしいな

いっぱいふけて とてもうれしい

どくだみが とてもくさい どうしてだ

でもお茶になる とてもふしぎだ

小学二年 廣尾 彰紀



☆うれしいと思ったことやふしぎだなあと思ったことを和歌ノートに書きとめていて、素晴らしいです。

お母さん いつもおりようりつくるから

足ぶみ一日してあげたいな

母の日に おともだちとね おかいもの

はじめてだから きんちようしたよ

おうちでね チェリーたべたよ おいしかった

またかってきて たべたいな

おうちでね ストロベリーをそだててね

いつもニコニコ たべているんだ

小学二年 実川 瑠花

☆リズムのよい言葉で、自分の気持ちを上手に表現していて素晴らしい。

母の日に 花たばつくった みつあみも

シロツメグサで 手がみもかいたよ

しいたけの きんをうえたよ たのしみだ

木つちでうった いつ出るのかな

小学二年 岡部梨唯子



☆母の日に心をこめて花束やシロツメグサの三つ編みをつくったのね。優しい心が伝わってきます。

母の日に くまをかったよ しろいくま

プレゼントしたら よろこんでくれた

小学三年 横田 椿



☆お母さんにプレゼントをわたす時のニコニコ笑顔が浮かんできます。

母の日は かがみをわたし よろこんだ

とてもたのしい 母の日だった

小学四年 横田 妃奈

☆何をあげようかなって、一生懸命考えて「かがみ」にしたんですね。喜んでもらえてよかったですね。

植物で ドクダミ にんじん クリの花

はじめて見たよ くさいにおいだ

小学五年 塚本 樹



☆初めて見た野菜などの花のにおいをかいで、びっくりした気持ちをそのまま素直に和歌にできました。

一日を ふりかえったら きのは過去で

あしたは未知のものでした

夏になり ひざしも強く あせもかく

日焼けに注意し 過ごしていこう

中学一年 塚本 愛梨

☆毎日の生活の中で、きれいだなあとか、すごいなあとか、びっくりしたという時の気持ちを言葉でスケッチしてみましよう。きっと楽しくなりますよ。

今月の論語

子、曰く

「利に放りて行えば

怨み多し。」

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「利益利益と、利益ばかりを求めすぎると、人のうらみを買うことが多い。」

(解説)

自分さえよければ、あるいは自分が得ることばかりを考えていませんか。それでは信じ合える、本当のお友達はできませんね。優しい気持ちを忘れてはいけませんね。「親子で楽しむ こども論語塾」(明治書院)より

次回は 七月二十日(土)です。

(文責・藤波)